

# 株式会社伸光堂 取締役社長 中村 勝夫

印刷加工業ではハードカバーの表紙加工や表紙の「箔押し」を主な仕事としています。その他にも運送業や保管管理業なども行っている会社です。

板橋に来たのは45～6年前で、板橋は同業者が多かったですし印刷加工業に関しては板橋が向いてると思います。以前の工場よりもスペースが広がり、ある意味で板橋であることに好感を持たれ、いろんな相談とかお得意さまが増えて受注も増えました。

箔押しは書店で並んだ時に光って目立つので読者が手に取る。そこで読者がどう判断するかですが、まずは手にとってもらうことが購買意欲に繋がるんじゃないかと思っているので、技術を継続して「あそこに任せておけば大丈夫だ」「伸光堂に任せておけばそれなりのものが上がるし、納期も製品も安心だ」と言われるような信用が財産になると考えており、業界でそこまで入るにはまだまだだけど、そうなりたいと思っています。

自分でやった商品が、オーバーな言い方ですけど「魂入ってるんだ」「どうだ俺の箔押しは、光ってるだろう」「永遠の輝きだ」というような、職人ですからそういうプライドを持ってやっているし、書店に行った時はとにかく見る。書店に並ぶ書籍で「これは我が社でやったやつだ」と見ればすぐにわかるし「これはうちじゃないな、どこのやつかな？」と勉強する。タイトルを見れば大体覚えているから全部わかる。おのずと頭に叩き込まれています。

今の時代だからこそ箔押しはアリだと思います。

今はデジタルの時代ですけど、箔押しってちょっとアナログな部分もありますから、需要と供給じゃないですけど、そういう技術を身につければこれからそれなりの価値はあると思うし、必ず残るのでゼロにはならないです。

我が社でも25～30年くらいのキャリアを積んでいる本当の職人が4人くらいいるのですが、一般的には4～5年で一人前になれるし、箔押しで生きていくという希望を持てば日本一を目指せます。私もサラリーマンでいたことがあるのですが、独立した方がある意味面白いかなと思い事業展開することに対して強い希望があって今に至っています。

私としては伸光堂の箔はトップレベルだと思ってやっているし、私と同じようにうちに来て職人として一人前になって独立すればいい。箔押しは今後も残っていく。仕事はうちにあるから。

